

全電源喪失の記憶

証言 福島第一原発

■第5章「命」

8

3月15日午前6時21分、福島第一

原発1～6号機の三つの中央制御室に免震重要棟への避難指示が出た。

2号機圧力抑制室に穴が開き、大量の放射性物質が放出される事態を想定した指示だった。

3、4号機制御室の当直長席にい

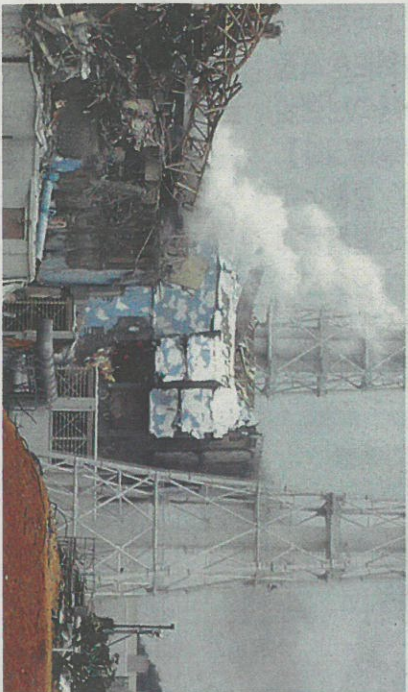
た作業管理グループの富田敏之(54)は「ついに最悪の事態になった」と感じていた。富田は衝撃音のした方

向から、異常があったのは2号機ではなく4号機だと考えていた。

富田ら制御室の3人は、交代要員として到着していた3人とサードス

建屋で合流し、免震棟に向かうことになった。交代要員が乗ってきた業務

衝撃音は4号機から



2号機監視に望み

車に6人が乗り込んだ。富田がハン

ドルを握った。4号機南側を回り込

み原子炉建屋に近づくと、路上に無

数の大きなコンクリート片が転が

り、道をふさいでいた。

「乗り越えてやろうとクセルを

踏んだんですけど、車はがれきに乘

り上げて動かなくなってしまうし

だ。仕方なく走って免震棟に向か

たんです」

車を降りて4号機を見上げると、

建屋の上部が吹っ飛び、壁がぐずぐ

▲白煙を上げる東京電力福島第一
原発3号機(左)と4号機(中央奥)
11年3月15日
(東京電力提供)

ずに崩れていた。やはりあの衝撃音

は4号機だった…。

富田たちは、3号機西側の坂を

上り、いったん敷地西側の「ふれあ

い交差点と呼ばれる交差点に出た。

れていた。だが定期検査中だった4

号機の原子炉には燃料が入っていな

い。状況的には4号機建屋が爆発し

たと考えるのが自然だが、なぜそん

なことが起きるのか、誰にも分から

なかつた。ただこれで午前6時14分

かこの衝撃音は4号機からだった可

能性が濃厚となった。

逆に、2号機圧力抑制室に穴が開

いていないのならば、まだ原子炉の

監視は続けられる。制御室に滞在す

る時間を極力短くすれば、被ばくも

抑えられるはずだ。

吉田が命じた。「当直は中操(中

央制御室)に向かい」

「何だ、それは1」。真っ先に反

応したのは所長の吉田昌郎(56)だ。同通信(国分伸矢)